

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成23年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム
「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」
研究開発プロジェクト

「『仮設コミュニティ』で創る新しい高齢社会のデザイン」

大方潤一郎
(東京大学大学院工学系研究科、教授)

1. 研究開発プロジェクト名

「仮設コミュニティ」で創る新しい高齢社会のデザイン

2. 研究開発実施の要約

① 研究開発目標

大槌町及び比較対象地である釜石平田運動公園仮設住宅地及び遠野市の仮設住宅地において、各仮設住宅地におけるコミュニティ再形成とコミュニティ活動開始のための基盤づくり（行政・関係公共機関・関係団体の連携体制づくりを含む）、入居初期の住民の心身状態や復興意向の調査、住民共助型コミュニティ活動の試行に向けての住民のエンパワメント、主要な活動についての予備的試行に注力する。

② 実施項目・内容

- ・ 住民自治組織の立上げや自治組織の運営支援を実施。
- ・ 定期的な会合を持つことを働きかけ自治組織運営の支援。
- ・ 仮設住宅運営協議会として（大槌）に仮設自治会の代表者会議を提案し設置。庁内横断仮設住宅プロジェクトチームを提案し設置、後にワンストップ窓口として「被災者支援室」へ移行。釜石・遠野においても市、自治会、商店会等を含めた運営協議会を設置した。
- ・ 各地においてイベントの実施といったコミュニティ活動の支援。
- ・ 各地において住環境の観察調査の実施（秋・冬）。（大槌・釜石）自治会を中心にコミュニティ住環境点検活動を実施した。
- ・ 住民の活動量・健康度調査のために、ADL・心理スケールなどからなるコミュニティ環境自己点検調査シートを開発し、実際に大槌町で調査を開始した。

③ 主な結果

- ・ 大槌町では概ね全46仮設団地において自治会が立ち上がり、集会場等を利用した住民共助型の取り組みが進んだ。特に住環境点検は大きな成果が上がり、住民による点検結果は町、県へとつながり、様々なハードの改善が進んだ。このような取り組みが高齢者の生活に与える影響についてADLや心理スケールを用いたコミュニティ環境自己点検シートを開発し調査を開始した。釜石・遠野においては昨年未までに商店会、サポートセンターが完成し、大槌町と同様に活動を進めている。

3. 研究開発実施の具体的内容

(1) 研究開発目標

① 仮設住宅地におけるコミュニティの再生

- ・ (H23) 仮設住宅地のコミュニティ再生の核となる自治組織を立ち上げ、住民同士の共同生活のルールや地域の課題などを共有する。
- ・ (H24～)自治体側にコミュニティ・マネジメント支援体制を構築し、自主的な各種会合、イベント、共同作業等の企画・運営を通じて、コミュニティの人間関係を実質的に育成する。
- ・ (ゴール) リーダー的役割を担える住民に、コミュニティのマネジメント役を委ねていく。

② 住民自身の活動を通じたコミュニティ・インフラ整備

- ・ (H23) 仮設住宅地の住民自治組織の地域連合組織となる「仮設住宅地運営協議

会」を設置し、行政、近隣の既存集落自治会代表者、保健・医療・介護関係者、地元商工業者、その他分野の専門家も参加し、仮設住宅地群と既存集落等を包摂する、一定の広がりをもった地域のコミュニティ協議会を目指す。

- ・ (H24～)この運営協議会の下で、コミュニティの課題発見的・共助的活動を展開していく。
 - ・ (ゴール)住民のニーズを把握しながら、生活再建のための基礎条件、特にコミュニティ・インフラを整備していく。
- ③ 住民自治組織による復興まちづくり計画策定と仮設コミュニティの継承
- ・ (H24～)住民自治組織がコミュニティ運営の主體的な担い手となっていくと同時に、本設復興まちづくりに向かって、自らの生活のイメージと、コミュニティ全体の空間的・社会的な復興イメージを喚起し、そのようなイメージに至る道筋を専門家や支援者の力を借りながら構想する。
 - ・ (ゴール)仮設住宅地におけるコミュニティ・インフラ整備の取り組みは、復興後のまちづくりのモデルともなり、新たな本設復興市街地に継承していく。
- ④ デザイン・モデルの獲得と指針化による国内外への普及
- ・ (ゴール)以上の過程を整理分析し、次世代型の仮設住宅地コミュニティの物的・社会的なデザイン・モデルを構築し、指針として国内外に発信する。

		10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体				第1回全体会議 ・進捗報告、方針検討			第2回全体会議 ・進捗報告、方針検討
大槌町	統括チーム ①コミュニティ再生	○仮設プロジェクトチーム (自治組織の立上げ) ○代表者会議	○被災者支援室設置 ○政策提言 ○代表者会議	○代表者会議	○政策提言 ○代表者会議	○代表者会議	○代表者会議
	じゅう ②コミュニティインフラ整備	○住環境点検活動 (町内8地区で実施) ○仮設外観調査(秋)	<改善点提言>	<改善点提言>	○仮設外観調査(冬)		
	しよく ③コミュニティマネジメントの実施	○点検結果報告会 (町内8地区実施) ○住民懇談会 (ニーズに応じて実施)	○まちづくり会社他 <提言>		<活動助成他提言>		
	い ④コミュニティケアの実施	○ケース共有会議	○ケース共有会議	○ケース共有会議	○ケース共有会議	○ケース共有会議	○ケース共有会議
釜石 (コミュニティケア型仮設)	○協議会設置 ○住環境アンケート調査	○自治会設置(隔週にて会議を実施)	○商店街オープン ○NPO等の各種支援			○住環境点検活動	
遠野 (コミュニティケア型仮設)	○協議会設置 ○住環境アンケート調査		○自治会設置 ○NPO等の各種支援				

図1. 2011年10月～2012年3月までの実施内容フロー

(2) 実施方法・実施内容 (図1参照)

- ① 仮設住宅地におけるコミュニティの再生
- ・ 自治組織の立上げの提案
 - (大槌町) 仮設住宅の自治組織立上げを提案した。これにそって町がまず48団地にて仮の代表者を選定し、一旦の組織化を図ったのちに、自治組織の総会等を行い、正式な自治組織を立ち上げて行く。
 - (釜石) 先に仮設住宅運営協議会設置し、住民の関心をあつめながら11月に自治組織を立上げた。
 - (遠野) 遠野3区自治会内に組み込む形で設置、自治組織を12月に立ち上げた。
 - ・ 仮設住宅運営協議会の提案
 - 3自治体に対して各仮設住宅の代表者等による連絡協議会「仮設住宅運営協議会」の設置を提案した。メンバーとしては上記住民自治組織の代表者、市町村関係各課、県関係各課、商工会、保健師・LSA、医療関係者、社協等地域福祉関係者(およびアドバイザーとしての当研究会メンバー)等で構成する。
 - (釜石・遠野) 釜石、遠野では提案通り協議会が設置された。
 - (大槌町) 釜石、遠野は1仮設団地であるが、大槌町は町全体であるため、行政側の体制としても、関係各課横断の特設プロジェクトチームを立ち上げ、いわゆるワンストップ窓口(たとえば「仮設住宅地支援センター」)を設置することを提案した。
 - ・ 仮設コミュニティ支援員の提案
 - (大槌町) 大槌町に対して、コミュニティ活動のファシリテーション役となるコミュニティ支援員を行政臨時職員として採用・配置することを提案した。
- ② 住民自身の活動を通じたコミュニティ・インフラ整備
- 【じゅう：住＝物的・空間的住環境】
- ・ (大槌、釜石、遠野) 住民自身による住環境点検活動及び自助／共助型の住環境改善活動の支援実施した。
 - ・ (大槌) 10月以降、8地区で住環境点検活動を実施した。
 - ・ 全仮設住宅団地の外観観察調査は秋・冬の2回実施した。
 - ・ 住環境の課題をセルフヘルプで解決するためのノウハウをまとめた「仮設住宅すみこなし通信」を作成し12月末から仮設住宅全戸に配布(月刊)した。
- 【い：医＝医療・保健・保育・教育など对人的ケア、社会的サービス環境】
- ・ 「仮設コミュニティ」による総合的なコミュニティ・インフラ整備が高齢者本人の健康度や心理状態及びコミュニティにもたらす効果に関する分析と評価を行うべく、地元自治組織と連携して行う、コミュニティ環境自己点検シートを開発した。
 - 行動面(外出頻度、地域のネットワークの規模、社会参加の頻度、健康行動など)、意識面(QOL、地域への関心、社会活動への意欲など)について捕捉し、「生きがい・活力」「地域社会とのつながり」といった面での複層的な評価。
 - ・ (大槌町) 4仮設団地に対して、上記コミュニティ環境自己点検を行った。
 - ・ 町の(支援室主催の)ケース共有会議(毎月)にはオブザーバーとして参加。

【しょく：食・職＝住民の自立的生活を支える社会経済的環境＝住民共助型活動を含め】

- ・ 住民共助型活動や仮設団地内でのコミュニティビジネスのファシリテーションを実施した。
 - 住環境点検活動の「報告会＝2回目の会」をきっかけに、コミュニティ内の交流促進（懇親会・飲み会・新年会など）を実施している。
- ・ 関係支援団体等の活動の（住民との）マッチングやコーディネート体制づくりが課題であり、11月に提示した第2次提案では、「住民共助型活動への助成制度」「まちづくり会社」の創設を提案しているが、具体的にはこれからとなっている。

（3）研究開発結果・成果

① 仮設住宅地におけるコミュニティの再生

- ・ 自治組織の立上げ
 - （大槌）約2000戸/48団地の各仮設住宅団地に自治組織（リーダー＋班長）を立ち上げた。（まだ3ヶ所の団地では不完全な状態である）
 - （釜石平田）自治会設立総会を行い、平田第5・第6仮設団地で自治組織を立上げた。
 - （遠野）遠野市第3区自治会内に設置した。イベントなどを連携して実施しているが、自治会としての取り組みは低調である。その理由は、遠野市唯一の仮設住宅であり、サポートセンターに支援者が常駐しており、自治組織が動くよりも確かつ迅速に支援者が対応している。支援が手厚いため自治組織として取り組むべき課題が少ないためであると考えられる。
- ・ 仮設住宅運営協議会設立
 - （大槌）仮設住宅団地住民代表者＋行政＋支援団体等による仮設代表者会議（仮設住宅運営協議会）を開設した。10月～11月は月2回全体で開催し、12月からは地区別（4地区）で開催。
 - ◇ 1月下旬に、大槌町関連支援団体等のMLの立上げ（運用は進まず）
 - ◇ コミュニティ支援員を行政臨時職員として採用・配置（ただし、当方の提案（コミュニティ活動のファシリテーション役）とはやや異なった形（北上市・大船渡市型の団地の施設管理人に類似した仕組み）である）
 - （大槌町）行政側の体制として、関係各課横断の特設プロジェクトチームが当初立ちあがった。11月から庁内の機構改革により、いわゆるワンストップ窓口として被災者支援室が設置されたために、各課横断の特設プロジェクトチームは解散となった。
 - （釜石）市、自治会、商店会等による平田運動公園仮設運営協議会を設置。月に2回のペースで会議を続けている。
 - （遠野）市、社会福祉協議会、自治会等による遠野市仮設住宅連絡会議を設置。月に1回のペースで進めている。

② 住民自身の活動を通じたコミュニティ・インフラ整備

【じゅう：住＝物的・空間的住環境】

- ・ 住民自身による住環境点検活動結果をもとに町・県・国への働きかけを行い住環境は（冬季対策を背景にして）かなり改善されつつある。
 - 改善されたものとしては、取り付け道路の舗装・改善、仮設住宅内通路の簡易舗

装、仮設住宅の庇、街灯の設置、仮設団地の案内看板などがある。

- ▶ 室内他、住民自身の費用で改善すべき部分の改善は、自費負担の問題や単身・夫婦のみ世帯では自力DIYも難しく、あまり進まなかった（NPO等による有料でのベランダ後付け工事などの例がみられたのみである）。
- ・ 仮設住宅住みこなしのための情報提供のため「仮設住宅すみこなし通信」を12月末から仮設住宅全戸に配布（月刊）。

【い：医＝医療・保健・保育・教育など対人的ケア、社会的サービス環境】

- ・ 12月末から調査、自治会主催によるコミュニティ環境自己点検活動として開始し分析を開始した。
 - ▶ 例えば中村地区（2月18日、19日実施 103戸／203人、回収率57.9%）の結果としては以下のことが明らかになった。
 - ◇ 週に1回以下の外出をする閉じこもり割合は6%、週に1回程度の外出をする閉じこもり予備軍が21%居た。
 - ◇ 悩みを相談できる人として、家族を挙げた方は71.9%、団地内の友人を挙げた人は14.1%であり、仮設団地内での人とのつながりへのアプローチの重要性が明らかになった。
 - ◇ 心の状態に問題がある方について、家族と同居している場合10.0%、単身高齢者22.2%、夫婦のみ33.3%であった。その他のデータでも、夫婦のみ世帯は単身高齢者よりも地域のつながりが少ないことがわかっている。
 - ▶ ほかに実施した、吉里吉里第4仮設、襲岩仮設などとデータを分析し、次年度も継続してフォローアップ調査をしていく。

【しよく：食・職＝住民の自立的生活を支える社会経済的環境＝住民共助型活動を含め】

- ・ （大槌）住環境点検活動の「報告会」をきっかけに、コミュニティ内の交流促進（懇親会・飲み会・新年会など）から、次の展開を試行中。
 - ▶ 地元自治会も報告会に合わせた、地域を巻き込むイベント（初期消火訓練や炊き出し）を自主的に組み合わせるなどの活動へ展開。
 - ▶ 新年会や懇親会なども、自主的に企画するようになっている。
 - ◇ 自主的な活動のために活動助成等の仕組みを提案するも実現は未定
- ・ （釜石）次年度の自治組織の活動資金獲得のために県の市民活動助成金申請し採択。コミュニティカフェ等を実施する予定。

（4）会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
平成23年 10月12日	フィールドワーク準備会 1	東京大学	大槌町における住環境点検ワークショップの実施体制、スケジュールの確認、準備。
平成23年 11月11日	フィールドワーク反省会 1	東京大学	大槌町における住環境点検ワークショップの成果の中間とりまとめ

			の検討、作成。
平成23年 11月21日	フィールドワーク準備会 2	東京大学	大槌町の住環境点検ワークショップを実施した地域において、専門家による住環境診断の実施の検討、準備。
平成23年 11月25～ 27日	フィールドワーク反省会 2	東大遠野センター	各地域の住環境診断の成果のとりまとめ。
平成23年 12月5日	フィールドワーク準備会 3	東京大学	大槌町の住環境点検ワークショップを実施した地域において、まちづくり懇話会の実施の検討、準備。
平成23年 12月5日	第1回全体会議	工学部列品館	本研究メンバー全員に呼びかけ、過去3カ月の進捗報告とともに、各チームごとに3カ月後を見据えて今後どのような進め方をするのか話し合った。
平成23年 12月12日	定例若手スタッフ会議 1	東京大学	<p>会議次第</p> <p>1 全体：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「住民意識調査」の企画・設計 ・サポセンの活動実態調査 ・コミュニティ支援員の雇用・配置の企画 ・仮設生活便利帳の作成 ・大槌町関係支援団体等連絡会の企画 <p>2. い：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「虚弱化予防」（健康づくり）活動や、「地域型認知症予防」（矢富先生）活動等の実施 ・「ひきこもり」を防ぐ方法の検討 <p>3. しょく：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住環境点検活動を行った団地での3回目以降のイベント（診断処方報告→懇話会→住民による活動の起動？）の実施の段取り ・振興局での次回の勉強会（コミュニティ・ビジネス）の企画 ・大槌町全体の「コミュニティ・ビジネス振興」の仕掛け <p>4. じゅう：</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・これまで点検した地区の診断処方編（＋全体編）の作成 ・仮設住宅改善事例集の作成 ・前回（中村地区）の住環境点検活動のまとめ、診断処方編の作成、報告会の企画 ・吉里吉里第4地区の住環境点検活動の準備 ・他の新規点検活動希望団地への対応の検討 ・仮設住宅地総覧の改訂（位置図のリファイン、各団地配置図のリファイン、各団地の統計データの付与） ・仮設住宅地のコミュニティ・スペース使われ方調査（観察調査）の企画 ・全仮設住宅地外観調査（全部見て回る調査）の企画
平成23年 12月13日	フィールドワーク準備会 4	東京大学	大槌町においてコミュニティ環境点検シートの調査企画の設計。
平成23年 12月26日	定例若手スタッフ会議 2	東京大学	<p>会議次第</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月以降の活動の記録 ・コミュニティ環境点検シートの修正・調査実施日・対象団地・配布回収方法 ・悉皆調査の旅程 ・平田仮設住宅の住環境点検の企画 ・和野における住環境点検ワークショップの実施 ・吉里吉里第4仮設の報告会 ・安渡地域イベントの出席・準備 ・子育てサークルのワークショップ ・まちづくり懇話会の企画 ・大槌町ふるさと復興研究会（仮）の企画
平成23年 12月27日	フィールドワーク準備会 5	東京大学	大槌町におけるコミュニティ環境点検シートの調査項目の再検討。
平成24年 1月4日	フィールドワーク準備会 6	東京大学	大槌町における仮設住宅団地の悉皆調査の準備

平成24年 1月13日	定例若手スタッフ会議 3	東京大学	会議次第 <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサークルのワークショップのプログラムの検討 ・コミュニティ環境点検シートの調査の体制・日程確認
平成24年 1月21～ 22日	フィールドワーク反省会 3	遠野東大センター	褒岩におけるコミュニティ環境点検シートの調査の進め方の反省を行った。
平成24年 1月23日	定例若手スタッフ会議 4	東京大学	会議次第 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ環境点検シートの調査実施の報告 ・和野における住環境点検ワークショップの実施の確認 ・子育てワークショップの実施報告 ・釜石コミュニティビジネス講座 ・安渡の高齢者いきがい支援 ・住みこなし通信の発行 ・大槌町に介入しているNPO・支援者リストの作成
平成24年 2月3日	定例若手スタッフ会議 5	東京大学	会議次第 <ul style="list-style-type: none"> ・和野における住環境点検ワークショップの実施報告 ・吉里吉里第4仮設における報告会実施報告 ・第2回子育てワークショップの開催の検討 ・コミュニティ環境点検シートの調査の体制・日程の確認 ・大槌NPO会議出席の報告 ・サポートセンター調査の企画検討
平成24年 2月7日	定例若手スタッフ会議 6	東京大学	会議次第 <ul style="list-style-type: none"> ・和野における報告会の実施検討 ・吉里吉里第4仮設団地における血圧管理の取組みの検討 ・平田における報告会の実施検討 ・第2回子育てワークショップの開催の検討 ・コミュニティ環境点検シートの調査の体制・日程の確認

平成24年 2月14日	定例若手スタッフ会議 7	東京大学	会議次第 <ul style="list-style-type: none"> ・サポートセンター調査の企画検討 ・子育てワークショップの開催の体制・日程の確認 ・和野における報告会の実施体制・日程の確認 ・吉里吉里第4仮設団地における血・圧管理の取組みの説明会の確認 ・コミュニティビジネス勉強会の開催報告
平成24年 2月16～ 19日	フィールドワーク反省会 4	遠野東大センター	中村、安渡地域におけるコミュニティ環境点検シート調査の方法に関する反省を行った。
平成24年 2月20日	定例若手スタッフ会議 8	東京大学	会議次第 <ul style="list-style-type: none"> ・子育てワークショップの開催の体制・日程の確認 ・平田における報告会の体制検討 ・袈岩におけるコミュニティ環境点検シート調査の報告会の実施検討
平成24年 2月27日	定例若手スタッフ会議 9	東京大学	会議次第 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ環境点検シートの解析進捗状況、及び袈岩におけるコミュニティ環境点検シート調査の報告会の実施体制の検討 ・安渡地域イベントの出席 ・平田における報告会の実施の確認
平成24年 3月2日	第2回全体会議	東京大学	本研究メンバー全員に呼びかけ、過去3カ月の進捗報告とともに、各チームごとに3カ月後を見据えて今後どのような進め方をするのか話し合った。
平成24年 3月5日	定例若手スタッフ会議 10	東京大学	会議次第 <ul style="list-style-type: none"> ・安渡地域イベントの出席報告 ・平田における報告会の実施報告 ・まさないにおけるコミュニティ環境点検シート調査の実施検討 ・サポートセンター調査

平成24年 3月10日	フィールドワー ク準備会 7	東京大学	コミュニティ環境点検シートの解 析を進め、褒岩での報告会の準備 をした。
平成24年 3月12日	定例若手スタッ フ会議 11	東京大学	会議次第 ・サポートセンター調査 ・まさないにおけるコミュニティ 環境点検シート調査の体制検討 ・褒岩における報告会の体制検討
平成24年 3月19日	定例若手スタッ フ会議 12	東京大学	会議次第 ・公開セミナーの実施検討 ・まさないにおけるコミュニティ 環境点検シート調査の体制検討 ・褒岩における報告会の体制検討
平成24年 3月23～ 24日	フィールドワー ク反省会 5	遠野東大セン ター	まさないにおけるコミュニティ環 境点検シート調査の方法に関する 反省を行った。
平成24年 3月27日	定例若手スタッ フ会議 13	東京大学	会議次第 ・公開セミナーの企画検討 ・褒岩における報告会の実施報告 ・まさないにおける調査の実施報 告

4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

- 当活動の成果を、岩手県広域沿岸振興局を通じて、三陸沿岸被災自治体に報告
 - 各地でも自治組織立上げが進み、岩手県の自治会組織率は90%を超えている。
 - その他、仮設住宅の見守り勉強会やコミュニティビジネス勉強会等を開催した。
 ※なおこの開催費用は、日本財団のROADプロジェクトによる。

5. 研究開発実施体制

(1) 統括計画調整グループ

- ① (大方潤一郎) 東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻
- ② 実施項目
 - 各事業の統括とマネジメント（進捗状況管理）、本研究開発事業全体の統括とマネジメントを実施。
 - 各仮設住宅地自治組織代表者、関係機関、団体代表者等からなる、仮設住宅運営協議会の設置と運営の支援を実施。
 - (大槌町) 仮設代表者会議、仮設プロジェクトチーム・被災者支援室との連携
 - (遠野市仮設団地) 遠野市仮設住宅連携会議
 - (釜石市平田仮設団地) 平田地区仮設住宅運営協議会

(2) コミュニティ活動マネジメント・チーム

① 小泉秀樹 東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻

② **研究開発実施項目**

- 各仮設住宅地の自治組織（住民協議会等）の立ち上げを提案し実現
- コミュニティ活動マネジメントにつながる住環境点検活動プログラムの検討
 - 住環境点検 WS→報告会→懇話会→コミュニティイベント実施
- 住環境点検 WS で指摘された課題について、自治組織が連携して取り組みたいと考えるイベントの支援
 - 袈岩仮設団地、中村仮設団地、安渡仮設団地における新年会など
- コミュニティ活動・生活再建に対する住民ニーズと各仮設住宅地の人的・物的資源の把握調査を始めた。

(3) コミュニティ空間マネジメント・チーム

① 大月敏雄 東京大学大学院 工学系研究科 建築学科

② **研究開発実施項目**

- 住環境点検 WS を実施し、仮設住宅地の住民の空間整備ニーズを把握。
- 上記結果を国・県レベルでの解決が必要な項目、町レベルでの解決が必要な項目、コミュニティレベルで解決すべき項目、自力で対応すべき項目に分け、県や町へ提案し、コミュニティレベルについては改善アドバイス。
- 自力で対応すべき項目については DIY を行うためのアドバイスをまとめた「仮設住宅住みこなし通信」を12月から毎月発行・大槌町民へ全戸配布。
- 仮設団地内で実施された空間整備の効果を、未整備の状態との比較を含め、秋・冬の2回測定・評価した。

(4) コミュニティ・ケアサポート・チーム

① (村嶋幸代) 東京大学大学院 東京大学大学院医学系研究科 地域看護学分野

② **研究開発実施項目**

- 住環境点検活動において、特に「い=コミュニティケア」の面でのニーズ調査を実施。
- コミュニティ環境自己点検シートを開発。
- 2011年12月より、仮設団地において調査を開始した。
 - 大槌町袈岩仮設団地、柵内仮設団地、安渡1、2、3仮設団地、中村仮設団地
- LSA による仮設住宅での見守り訪問活動について月1回開催される情報共有のための会議（ケース共有会議）に出席。

6. 研究開発実施者（○はリーダー）

（1）統括計画調整グループ

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
○	大方潤一郎	オオカタ ジュンイチロウ	東京大学都市工学科	教授	研究運営統括（代表）
	後藤 純	ゴトウ ジュン	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任研究員	事業運営統括補佐
	村嶋 幸代	ムラシマ サチヨ	東京大学大学院 医学系研究科	教授	コミュニティ・ケア
	寺本 千恵	テラモト チユ	東京大学大学院 医学系研究科	M1	コミュニティケアチ ーム運営補佐
	森反 章夫	モリタン アキオ	東京経済大学	教授	コミュニティ組織
	大月 敏雄	オオツキ トシオ	東京大学建築学科	准教授	コミュニティ・スペ ース
	富安 亮輔	トミヤス リョウスケ	遠野市・東京大学建築学科	コーディネ ータ・博士課程	コミュニティ・スペ ースチーム運営統括補佐
	趙 晟恩	チョウ ソンウン	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	特任研究員	コミュニティ・スペ ースチーム運営統括補佐
	牧野 篤	マキノ アツシ	東京大学教育学部	教授	コミュニティ・ケア/ マネジメント
	小泉 秀樹	コイズミ ヒデキ	東京大学都市工学科	准教授	コミュニティ・マネジ メント
	似内 遼一	ニタナイ リョウイチ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	D1	コミュニティ・マネジ メントチーム統括補佐
	新 雅史	アラタ マサフミ	学習院大学	非常勤講師	コミュニティ・マネジ メントチーム統括補佐
	鈴木るり子	スズキ ルリコ	岩手看護短期大学	教授	研究運営統括
	狩野 徹	カノウ トオル	岩手県立大社会福祉学部	教授	研究運営統括
	岸 恵美子	キシ エミコ	帝京大学 医療技術学部看護学科	教授	復興計画策定支援

（2）コミュニティ・マネジメント・サポート・チーム

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
○	小泉 秀樹	コイズミ ヒデキ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	准教授	グループ統括 コミュニティ事業
	似内 遼一	ニタナイ リョウイチ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	D1	コミュニティ活動支援 統括
	金井 利之	カナイ トシユキ	東京大学法学部	准教授	コミュニティの資源管 理支援

	森反 章夫	モリタン アキオ	東京経済大学	教授	コミュニティ組織
	牧野 篤	マキノ アツシ	東京大学教育学部	教授	生涯学習、子どもの教育支援
	鈴木るり子	スズキ ルリコ	岩手看護短期大学	教授	食事等の生活介助支援
	新 雅史	アラタ マサフミ	学習院大学	非常勤講師	住民調査・ニーズ評価・設計・解析
	後藤 純	ゴトウ ジュン	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任研究員	市民事業
	井堀 幹夫	イホリ ミキオ	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任研究員	住民自治活動・NPO運営支援
	永田 智子	ナガタ サトコ	東京大学大学院 医学系研究科	講師	高齢者の食生活支援
	後藤智香子	ゴトウ チカコ	アーバンデザインセンタ柏	ディレクター	集会場運営支援
	堤 可奈子	ツツミ カナコ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	D3	コミュニティ活動支援
	神原 康介	カンバラ コウスケ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	D1	コミュニティ活動支援
	小阪 剛	コサカ ツヨシ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	M2	コミュニティ活動支援
	小林佐和子	コバヤシ サワコ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	M2	コミュニティ活動支援
	外松 浩一	ソトマツ コウイチ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	M2	コミュニティ活動支援
	趙 美香	チョウ ミカ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	M1	コミュニティ活動支援
	大宮 透	オオミヤ トオル	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	M1	コミュニティ活動支援
	フェリペ・ デ・ソーザ		東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	客員研究員	コミュニティ活動支援
	松田 悠暉	マツダ ユウキ	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	M1	コミュニティ活動支援
	的場 弾	マトバ ダン	東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	M1	コミュニティ活動支援
	松本 直之	マツモト ナオユキ	東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻	M1	コミュニティ活動支援
	イム・サン ヨン		東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻	D2	コミュニティ活動支援

(3) コミュニティ・スペース・サポート・チーム

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
○	大月 敏雄	オオツキ トシオ	東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻	准教授	グループ統括
	富安 亮輔	トミヤス リョウスケ	遠野市・東京大学建築学科	コーディネー ター・D2	住環境点検統括
	趙 晟恩	チョウ ソンウン	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	特任研究員	住環境点検統括
	岡本 玲子	オカモト レイコ	岡山大学大学院 保健学研究科	教授	住民調査・ニーズ評 価・設計・解析
	西出 和彦	ニシデ カズヒコ	東京大学建築学科	教授	住宅地設計
	牧野 篤	マキノ アツシ	東京大学教育学部	教授	子どもケア空間
	狩野 徹	カノウ トオル	岩手県立大学社会福祉学部	教授	福祉施設
	小泉 秀樹	コイズミ ヒデキ	東京大学都市工学科	准教授	オープンスペース
	廣瀬 雄一	ヒロセ ユウイチ	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任研究員	バリアフリー
	岡本 和彦	オカモト カズヒコ	東京大学建築学科	助教	サポートセンター
	瀬沼 智洋	セヌマ トモヒロ	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任研究員	居住環境
	有本 梓	アリモト アズサ	東京大学大学院 医学系研究科	助教	医療施設
	深井 祐紘	フカイ ヨシヒロ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	D1	住みこなし通信作成
	吉田 雅史	ヨシダ マサシ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	M1	住環境点検調査
	生山 翼	オイヤマ ツバサ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	M1	住環境点検調査
	栗野 悠	アワノ ユウ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	M1	住環境点検調査
	朴 晟源	パク ソンウォン	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	M1	住環境点検調査
	朴 動浩	パク ドンホ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	D2	住環境点検調査
	齊藤 慶伸	サイトウ ヨシノブ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	4年	住環境点検調査
	栗原 理沙	クリハラ リサ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	4年	住環境点検調査
	篠本 快	シノモト カイ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	M1	住環境点検調査

	園田 千佳	ソノダ チカ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	4年	住環境点検調査
	井本 佐保里	イモト サオリ	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻	D2	住環境点検調査

(4) コミュニティ・ケア・サポート・チーム

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
○	村嶋 幸代	ムラシマ サチヨ	東京大学大学院 医学系研究科	教授	グループ統括
	寺本 千恵	テラモト チエ	東京大学大学院 医学系研究科	M1	コミュニティ環境点 検調査
	新 雅史	アラタ マサフミ	学習院大学	非常勤講師	コミュニティ環境点 検調査
	牧野 篤	マキノ アツシ	東京大学教育学部	教授	住環境点検統括
	岡本 玲子	オカモト レイコ	岡山大学大学院 保健学研究科	教授	住環境点検統括
	永田 智子	ナガタ サトコ	東京大学大学院 医学系研究科	講師	住民調査・ニーズ評 価・設計・解析
	岡本 和彦	オカモト カズヒコ	東京大学建築学科	助教	住宅地設計
	笈田 幹弘	オイダ ミキヒロ	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任研究員	子どもケア空間
	井堀 幹夫	イホリ ミキオ	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任研究員	福祉施設
	堂本 司	ドウモト ツカサ	東京大学大学院 医学系研究科	M1	コミュニティ環境点 検調査
	柳瀬 裕貴	ヤナセ ユウキ	東京大学大学院 医学系研究科	M1	コミュニティ環境点 検調査
	阪井 万裕	サカイ マサヒロ	東京大学大学院 医学系研究科	M1	コミュニティ環境点 検調査
	岩崎 りほ	イワサキ リホ	東京大学大学院 医学系研究科	M2	コミュニティ環境点 検調査
	大橋 由基	オオハシ ヨシキ	東京大学大学院 医学系研究科	M2	コミュニティ環境点 検調査
	石川 英里	イシカワ エリ	東京大学大学院 医学系研究科	M2	コミュニティ環境点 検調査
	島村 珠枝	シمامラ タマエ	東京大学大学院 医学系研究科	D3	コミュニティ環境点 検調査
	小暮 かおり	コグレ カオリ	東京大学大学院 医学系研究科	M1	コミュニティ環境点 検調査

菅原育子	スガワラ イクコ	高齢社会総合研究機構	特任助教	調査票作成
------	----------	------------	------	-------

7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

7-1. ワークショップ等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
平成24年3月28日	超高齢社会に耐えうる震災復興まちづくり	東京大学工学部11号館講堂	100名	東京大学高齢社会総合研究機構と共催で実施。震災対応のまちづくりの在り方について学内の様々な研究者と意見交換を行った。

7-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

- 富安亮輔、11月19日 前橋工科大学公開講座「コミュニティア型仮設住宅の実践-岩手県釜石市と遠野市」@前橋工科大学
- 富安亮輔、12月5日 早稲田大学「コミュニティア型仮設住宅の実践-岩手県釜石市と遠野市-」@早稲田大学人間科学部
- 大方潤一郎、大月敏雄、小泉秀樹、富安亮輔、後藤純、12月12日 東京大学まちづくり大学院「仮設コミュニティでつくる新しい高齢化社会のデザイン」@東京大学
- 富安亮輔、1月7日 総合社会福祉研究所社会福祉研究交流集会第16回合宿研究会「遠野市 縁が繋ぐコミュニティア型仮設住宅 希望の郷「絆」の開設と運営に関わって」@遠野市
- 大月敏雄、1月13日 高齢者住宅推進機構第3回定例セミナー「東日本大震災における仮設住宅居住と高齢者の地域居住について」@独立行政法人住宅金融支援機構すまい・るホール
- 富安亮輔、2月22日 日本建築学会震災関連WG拡大委員会第二回「遠野市 縁が繋ぐコミュニティア型仮設住宅 希望の郷「絆」の開設と運営に関わって」@建築会館
- 大月敏雄、2月23日 建築計画技術小委員会「建築計画研究とコミュニティア型仮設住宅の実現」@建築会館
- 村嶋幸代、3月16日、福岡県在宅医療推進事業研修会、地域医療に求められる災害対策—大槌町における保健師による全戸家庭訪問健康調査から見えた事を軸に—@福岡県 吉塚合同庁舎

7-3. 論文発表（国内誌 7 件、国際誌 0 件）

- 後藤純、2012年1月、被災地で目指す高齢社会のまちづくりモデル、月刊病院、71巻1号、医学書院
- 後藤純、2012年1月、高齢者が住みやすい社会の構築にむけて、月刊保健の科学、54巻1号、杏林書院
- 富安亮輔「釜石市と遠野市におけるコミュニティア型仮設住宅の提案と実践」『医療福祉建築』2012年1月号、日本医療福祉建築協会

- 大月敏雄、富安亮輔ら「遠野市仮設住宅 希望の郷「絆」」『新建築』2011年12月号、新建築社
- 富安亮輔「ルポー私が見続けた遠野市の1年-」『住宅』Vol61, pp138-145, 2012年3月, 社団法人日本住宅協会
- 趙晟恩「仮設住宅と子育て環境ー岩手の事例からー」『住宅』Vol61, pp107-109, 2012年3月, 社団法人日本住宅協会
- 小泉秀樹「震災復興におけるコミュニティ・デザイン」『住宅会議』vol84, pp38-41, 2012年2号、日本住宅会議

7-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

① 招待講演（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

② 口頭講演（国内会議 3 件、国際会議 0 件）

- ・ 井本佐保里、富安亮輔ら「コミュニティケア型仮設住宅の提案と実践～K市とT市におけるケーススタディその1～」『東日本大震災からの教訓、これからの新しい国づくり』日本建築学会、2012年、p319-322
- ・ 富安亮輔、井本佐保里ら「コミュニティケア型仮設住宅の実践の経緯と生活実態～K市とT市におけるケーススタディその2～」『東日本大震災からの教訓、これからの新しい国づくり』日本建築学会、2012年、p323-326
- ・ 大月敏雄 シンポジウム 東日本大震災からの教訓、これからの新しい国づくり「仮設住宅での暮らしの支援からコミュニティの復興へ」日本建築学会、2012年3月1日、@建築会館

③ ポスター発表（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

7-5. 新聞報道・投稿、受賞等

① 新聞報道・投稿

- ・ 読売新聞 2012年3月9日特集東日本大新足1年（12面）「孤独死防止へ住民交流」

② 受賞

- ・ 富安亮輔 2011年度前期 東京大学総長賞
- ・ 富安亮輔 2011年度 東京大学総長賞大賞

③ その他